

がん検診に関する分析



■生活習慣病予防健診について

①対象者

- ・ 35歳以上74歳までの被保険者
(年度途中に35歳になる者を含む)

②費用

- ・ 年度内一人1回に限り協会けんぽが健診費用の一部を補助
- ・ 自己負担額：最高7,038円
(自己負担額に協会けんぽの補助額を含んだ金額：最高18,522円)
- ・ 一般的な検査項目の健診（一般健診）のほかに、以下のとおり追加して受診することができる

✓付加健診（40歳、50歳の方のみ）

✓乳がん検診（40歳以上かつ偶数年齢の方）

✓子宮頸がん検診（20歳以上かつ偶数年齢の方）

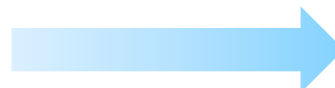
※35歳未満の方は子宮頸がん検診単独で受診

※それぞれ自己負担額あり

③検査項目

- ・ 年1回の定期健診
- ・ 診察や尿、血液を採取しての検査のほか肺がん、胃がん、大腸がん等のがん検診がセットになった健診

※詳しくは右記「表」を参照



生活習慣病予防健診と 事業者健診（定期健診）の比較 【参考】

検査項目		生活習慣病予防健診 (一般健診)	事業者健診 (定期健診)
身体計測	身長	○	● ¹
	体重	○	○
	BMI	○	○
	腹囲	○	● ² ※
	血圧	○	○
	視力	○	○
	聴力	○	○
問診		○	○
診察		○	○
脂質	総コレステロール	○	
	中性脂肪	○	● ²
	HDLコレステロール	○	● ²
	LDLコレステロール	○	● ²
肝機能	GOT	○	● ²
	GPT	○	● ²
	γ-GTP	○	● ²
	ALP	○	
代謝系	空腹時血糖	○	● ²
	尿糖	○	○
	尿酸	○	
尿腎機能	尿蛋白	○	○
	潜血	○	
	血清クレアチニン	○	
血液一般	ヘマトクリット値	○	
	血色素測定	○	● ²
	赤血球数	○	● ²
	白血球数	○	
心電図検査		○	● ²
胸部レントゲン検査		○	○※
胃部レントゲン検査		○	
便潜血検査		○	

●¹：20歳以上の者は医師の判断で省略可

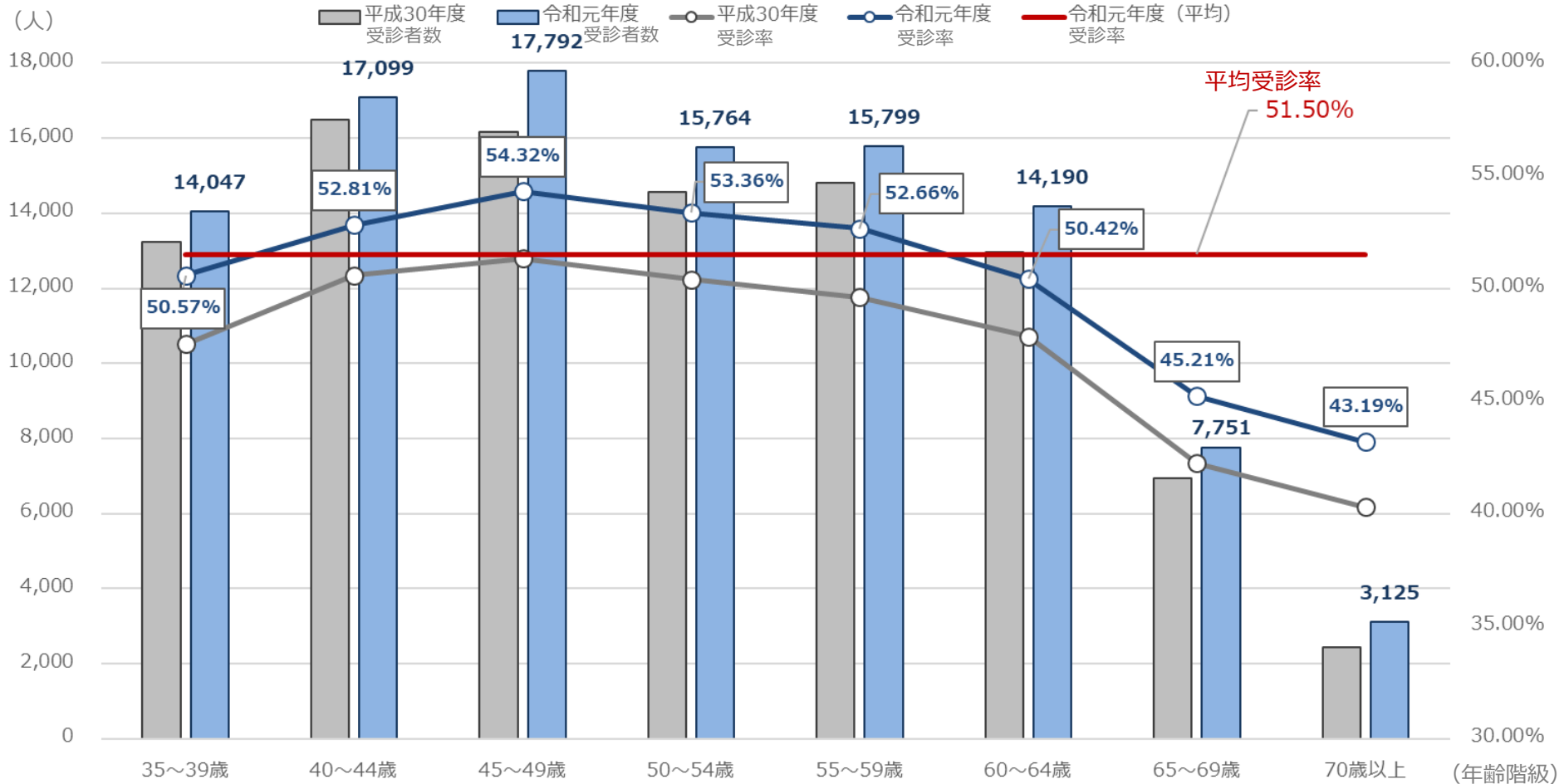
●²：40歳未満（35歳除く）の者は医師の判断で省略可

※：一定条件を満たせば省略可

生活習慣病予防健診：令和元年度受診者数 105,567人

※表示している数値は令和元年度のもの
※受診者は岩手支部加入の健診受診者

(受診率 = 受診者数 ÷ 被保険者数【35歳以上】)

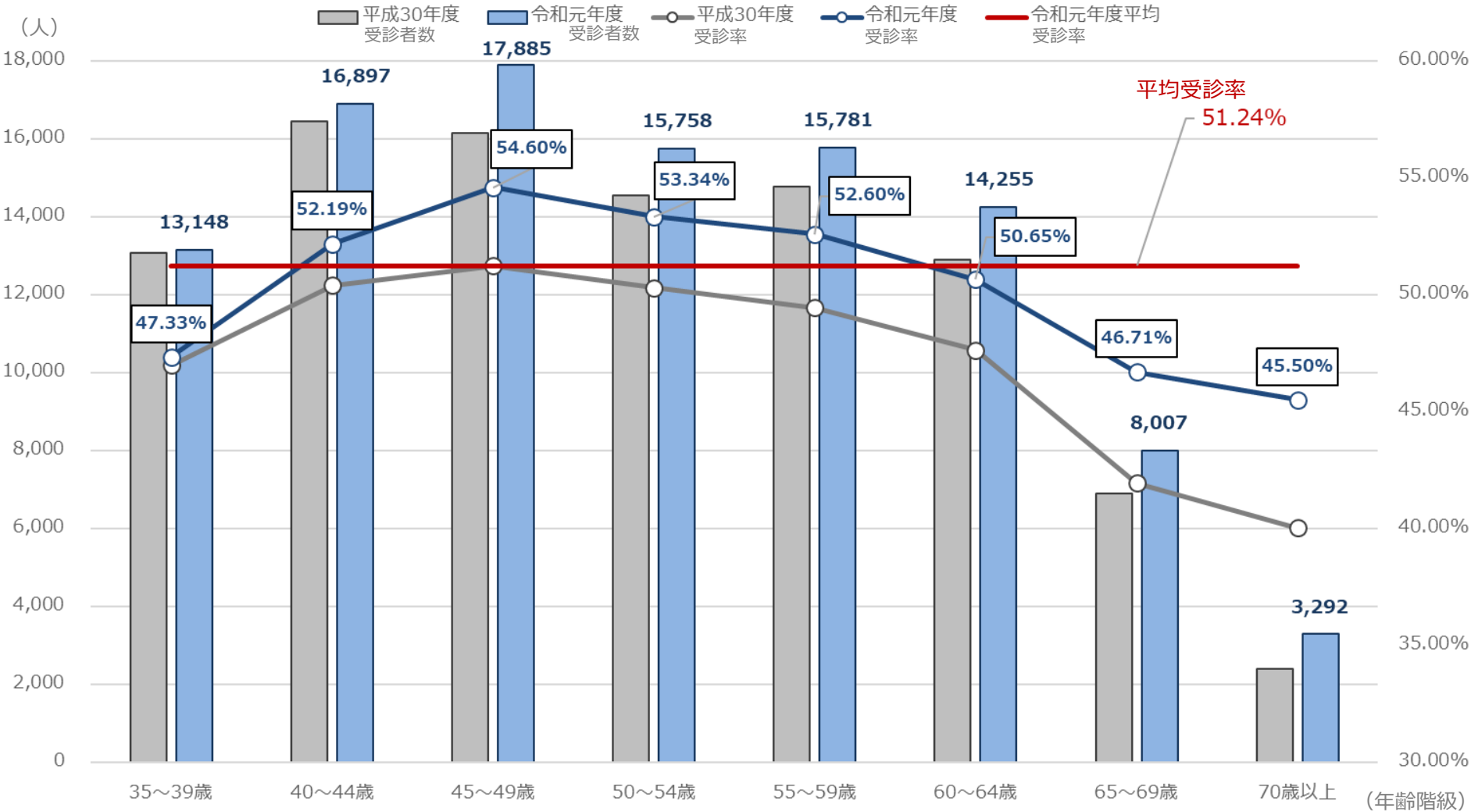


被保険者数（人）	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
平成30年度	27,845	32,610	31,515	28,920	29,851	27,078	16,431	6,015	200,265
令和元年度	27,777	32,379	32,757	29,543	30,003	28,145	17,143	7,235	204,982

胸部X線検査（肺がん検診）：令和元年度受診者数 105,023人

※表示している数値は令和元年度のもの

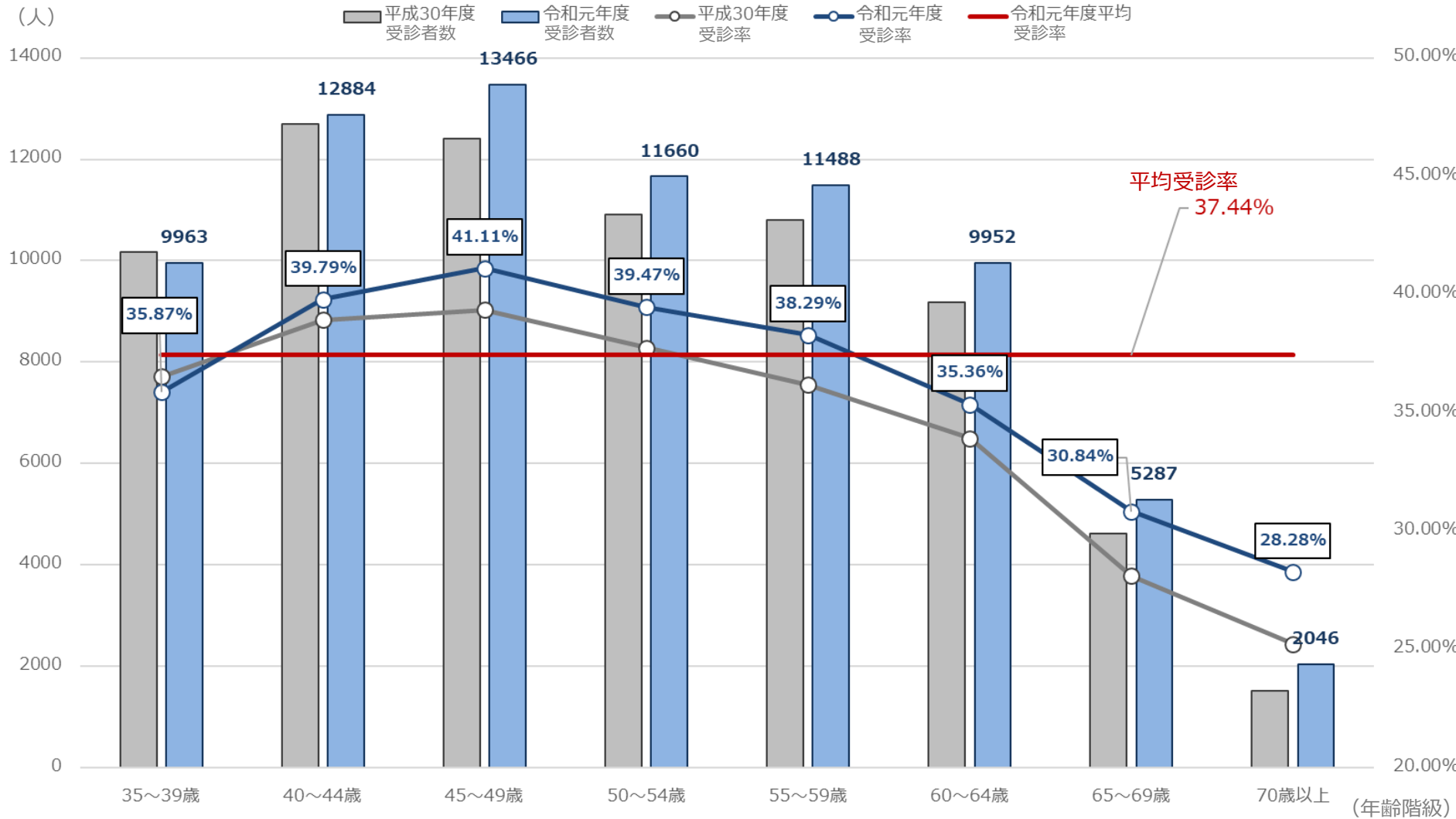
（受診率＝受診者数÷被保険者数【35歳以上】）



胃部X線・内視鏡検査（胃がん検診）：令和元年度受診者数 76,746人

※表示している数値は令和元年度のもの

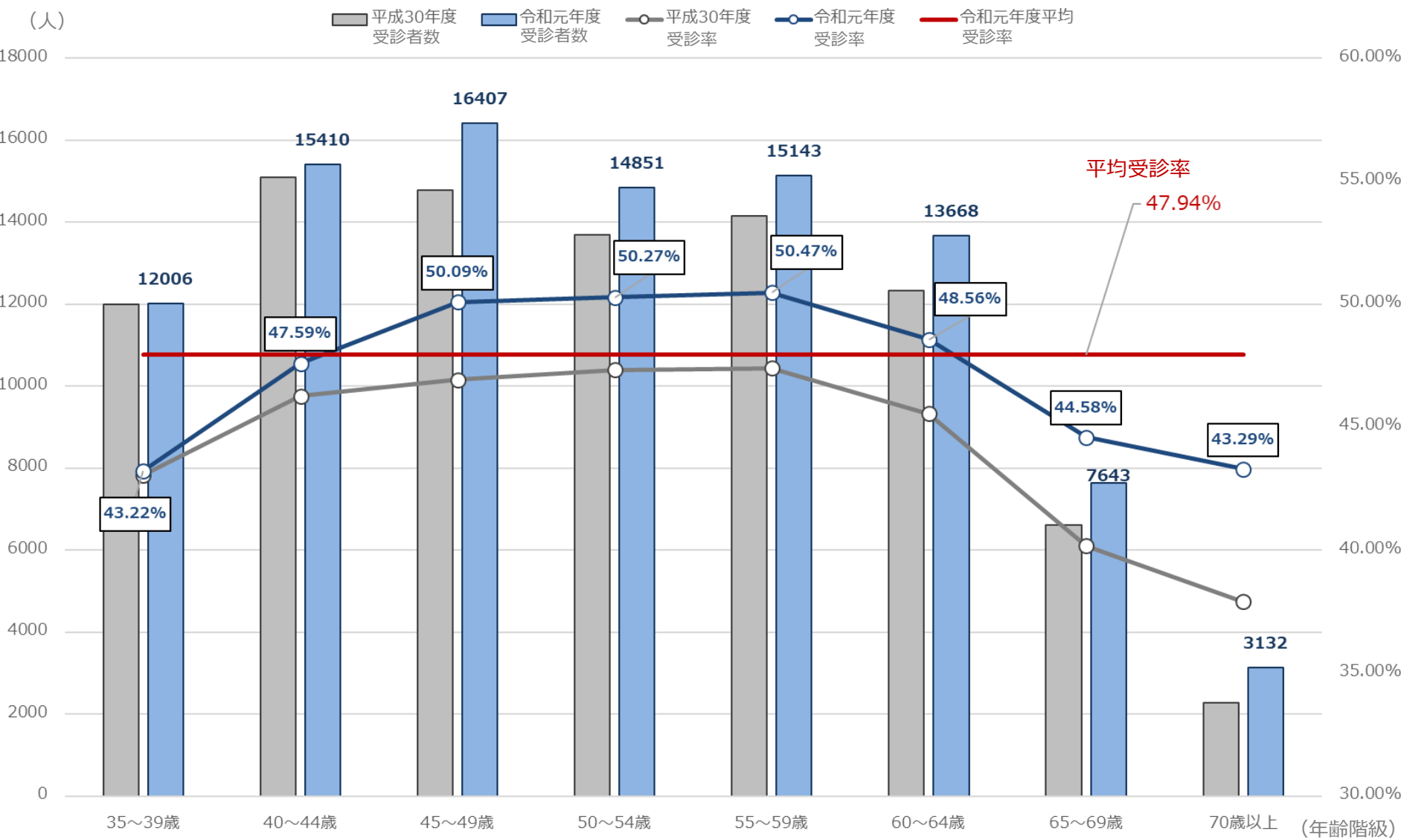
（受診率＝受診者数÷被保険者数【35歳以上】）



大腸免疫便潜血反応検査（大腸がん検診）：令和元年度受診者数 98,260人

※表示している数値は令和元年度のもの

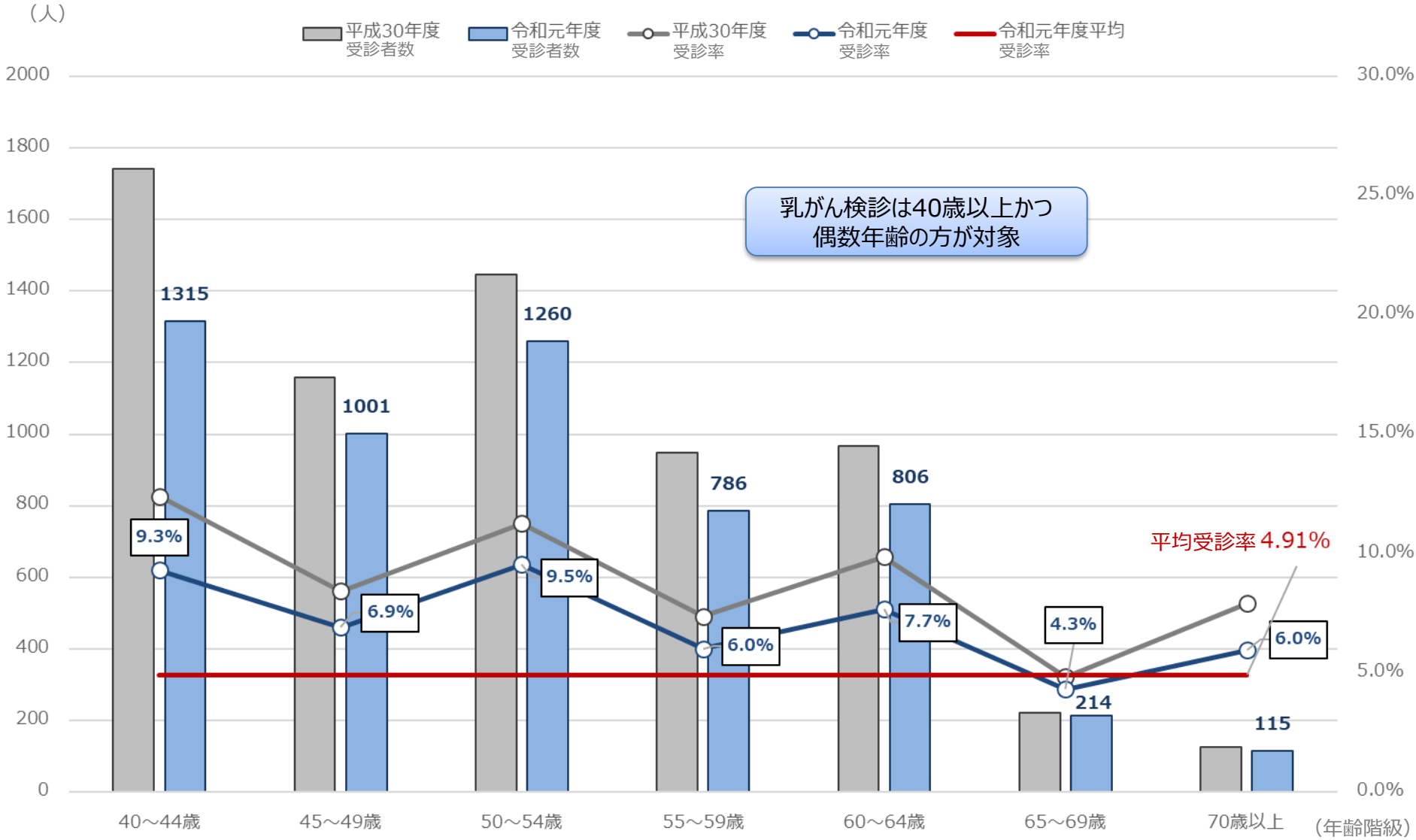
（受診率＝受診者数÷被保険者数【35歳以上】）



乳がん検診：令和元年度受診者数 5,497人

※表示している数値は令和元年度のもの

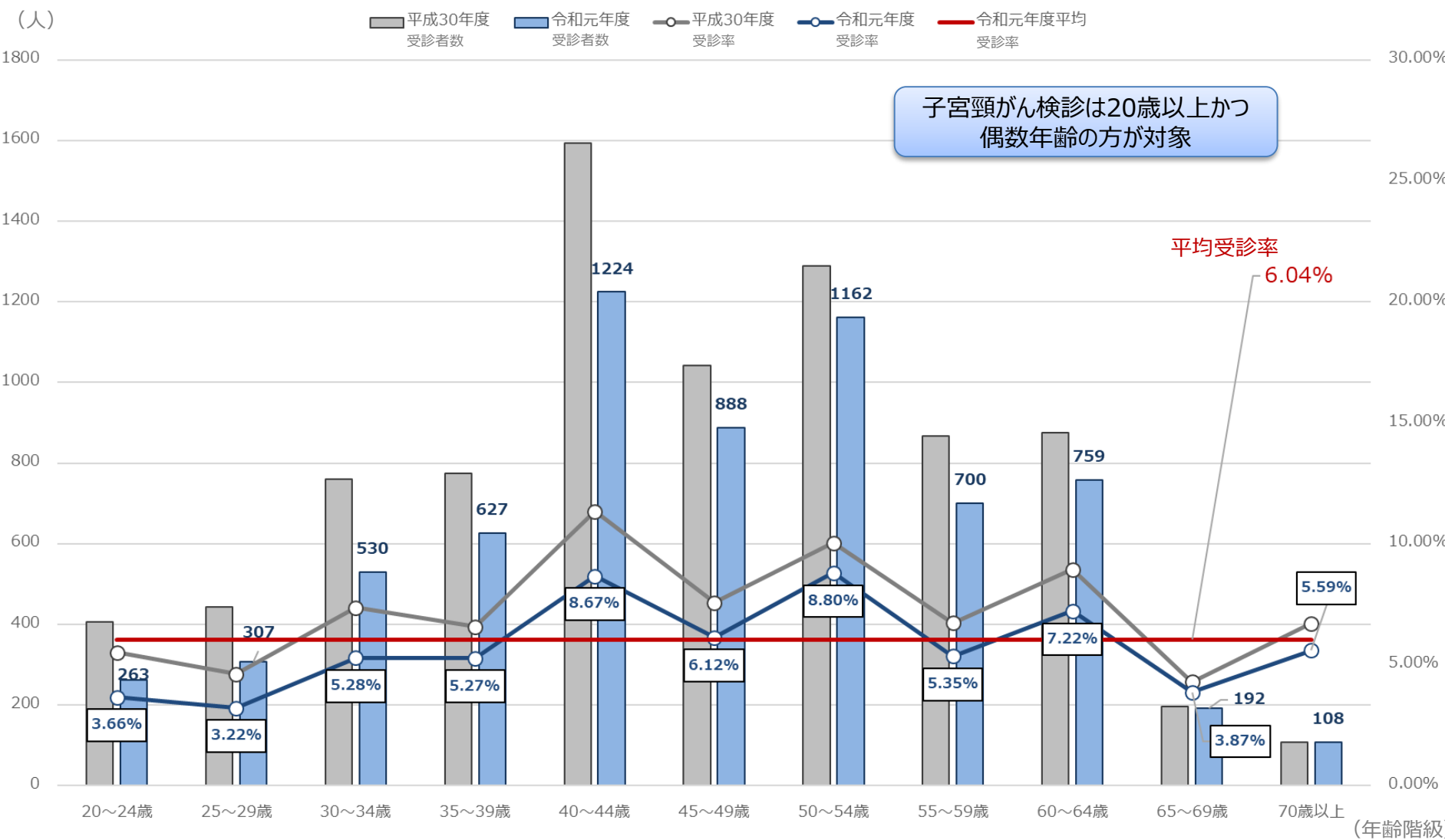
（受診率＝受診者数÷女性被保険者数【40歳以上】）※乳がん検診は40歳以上かつ偶数年齢の方が対象であるが、受診率の算出に当たって、分母を40歳以上の全女性被保険者数として計算を行っているため、受診率が過少となる。



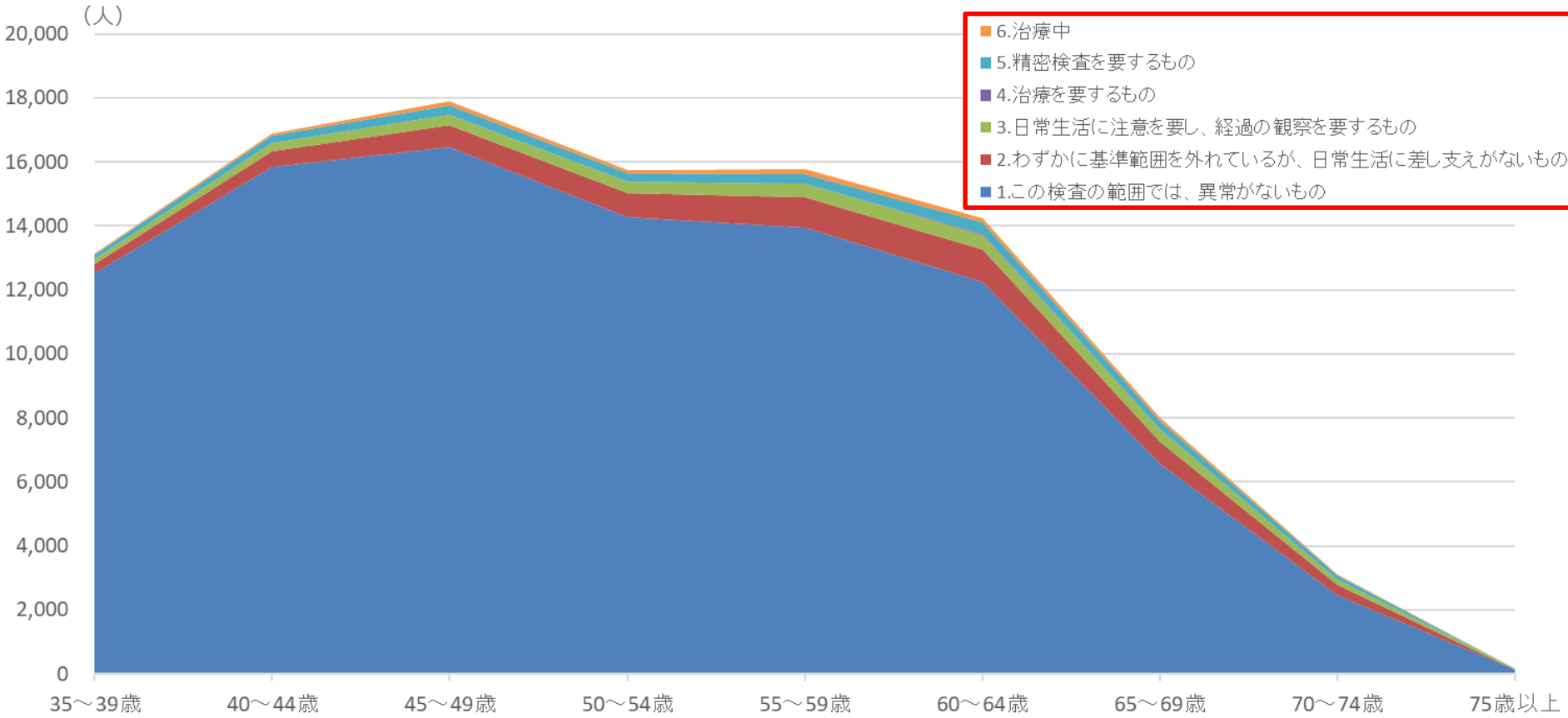
子宮頸がん検診：令和元年度受診者数 6,760人

※表示している数値は令和元年度のもの

（受診率＝受診者数÷女性被保険者数【20歳以上】） ※子宮頸がん検診は20歳以上かつ偶数年齢の方が対象であるが、受診率の算出に当たって、分母を20歳以上の全女性被保険者数として計算を行っているため、受診率が過少となる。

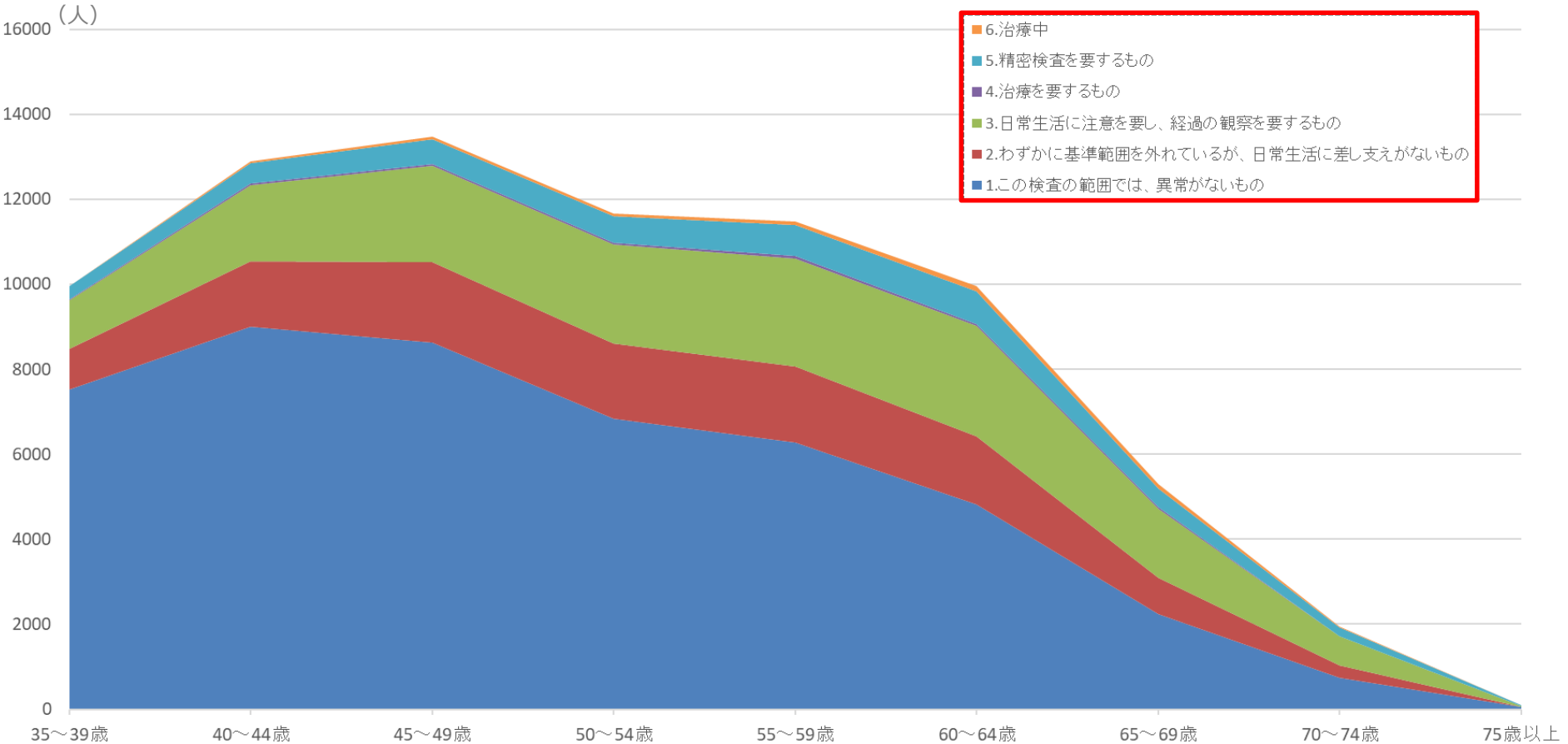


【令和元年度】胸部X線検査（肺がん検診）



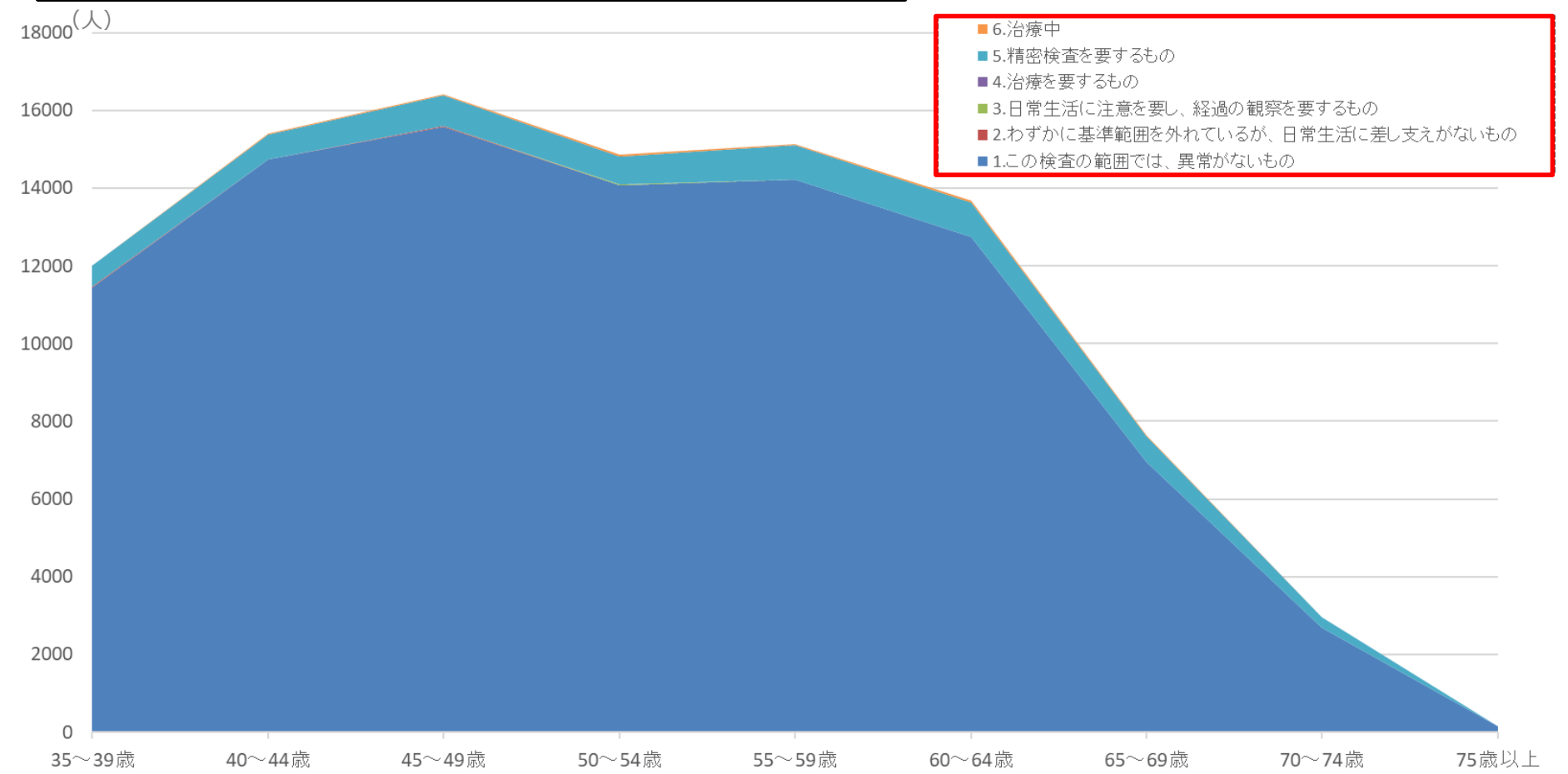
該当割合（肺がん）	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	計
1.この検査の範囲では、異常がないもの	11.92%	15.07%	15.67%	13.58%	13.29%	11.66%	6.24%	2.34%	0.12%	89.90%
2.わずかに基準範囲を外れているが、日常生活に差し支えないもの	0.29%	0.48%	0.66%	0.73%	0.89%	0.97%	0.66%	0.30%	0.02%	4.99%
3.日常生活に注意を要し、経過の観察を要するもの	0.14%	0.24%	0.31%	0.33%	0.40%	0.45%	0.37%	0.17%	0.01%	2.43%
4.治療を要するもの	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.02%
5.精密検査を要するもの	0.12%	0.21%	0.27%	0.25%	0.29%	0.37%	0.27%	0.12%	0.01%	1.91%
6.治療中	0.06%	0.08%	0.11%	0.11%	0.15%	0.13%	0.08%	0.04%	0.00%	0.75%
計	12.52%	16.09%	17.03%	15.00%	15.03%	13.57%	7.62%	2.97%	0.16%	100.00%

【令和元年度】 胃部X線・内視鏡検査（胃がん検診）



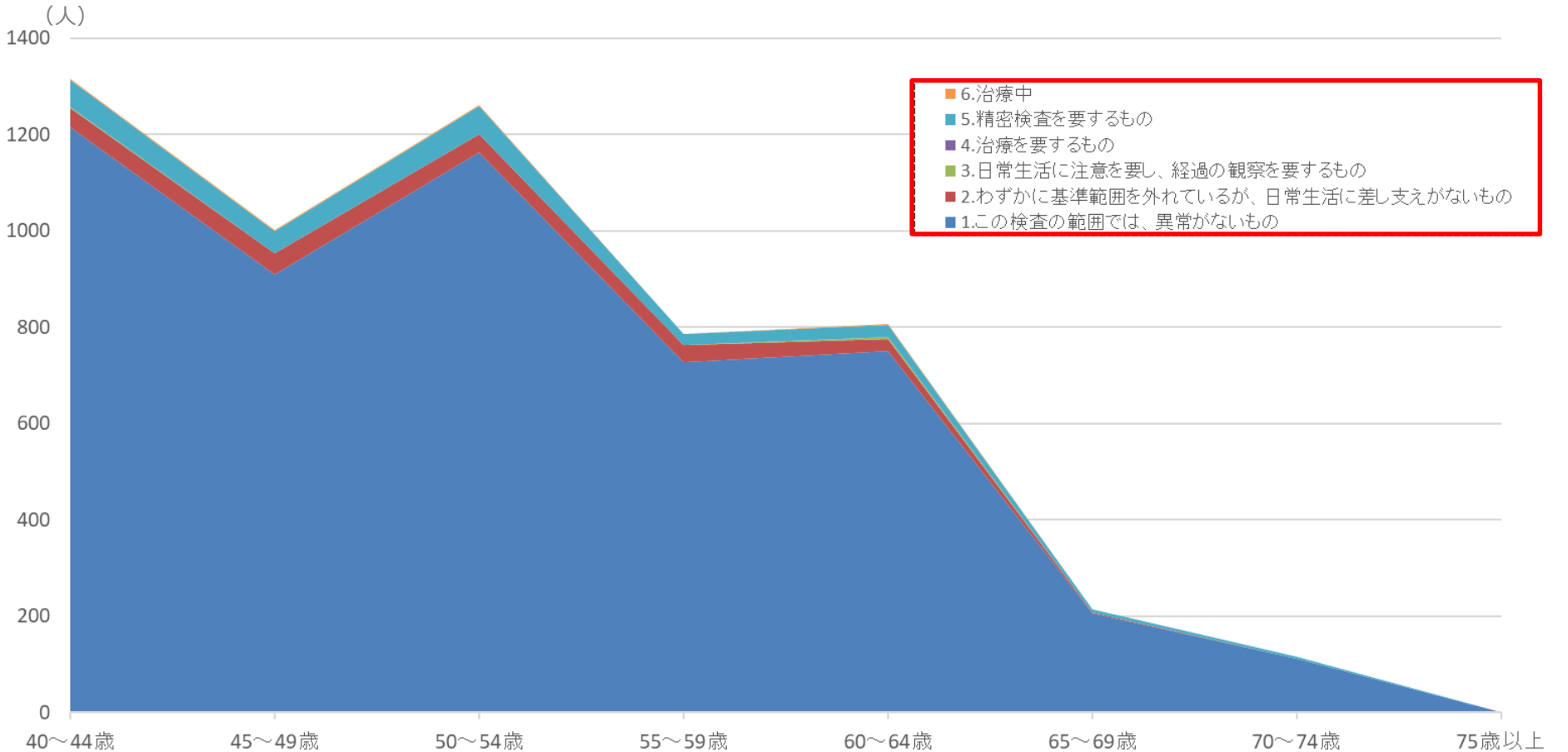
該当割合（胃がん）	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	計
1.この検査の範囲では、異常がないもの	9.80%	11.74%	11.24%	8.91%	8.18%	6.28%	2.92%	0.95%	0.06%	60.08%
2.わずかに基準範囲を外れているが、日常生活に差し支えないもの	1.24%	1.99%	2.46%	2.29%	2.33%	2.08%	1.11%	0.39%	0.02%	13.91%
3.日常生活に注意を要し、経過の観察を要するもの	1.49%	2.35%	2.96%	3.04%	3.33%	3.38%	2.12%	0.88%	0.03%	19.59%
4.治療を要するもの	0.03%	0.04%	0.06%	0.05%	0.07%	0.06%	0.04%	0.02%	0.00%	0.38%
5.精密検査を要するもの	0.40%	0.63%	0.75%	0.82%	0.95%	1.01%	0.58%	0.26%	0.02%	5.41%
6.治療中	0.01%	0.04%	0.07%	0.08%	0.12%	0.15%	0.11%	0.03%	0.00%	0.62%
計	12.98%	16.79%	17.55%	15.19%	14.97%	12.97%	6.89%	2.54%	0.13%	100.00%

【令和元年度】大腸免疫便潜血反応検査（大腸がん検診）



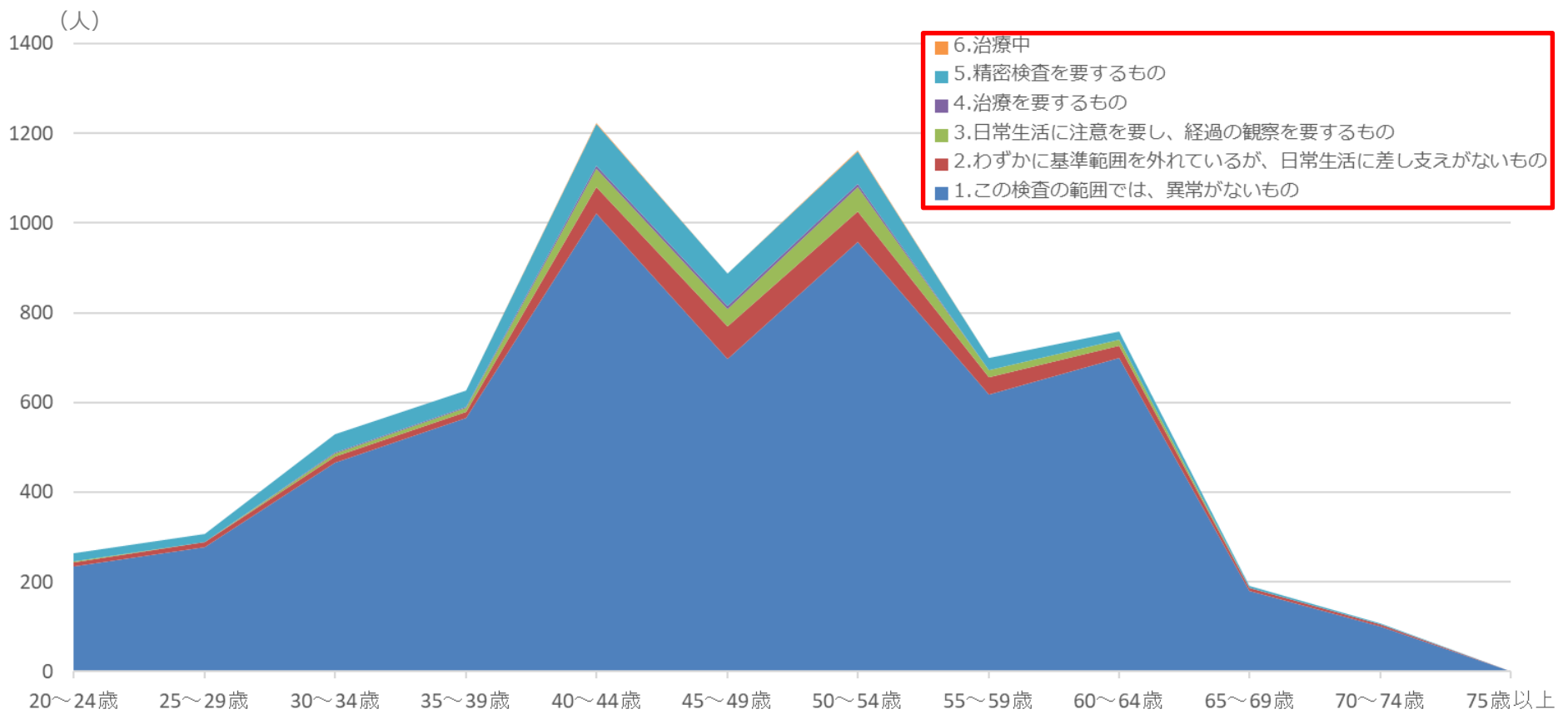
該当割合（大腸がん）	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	計
1.この検査の範囲では、異常がないもの	11.65%	14.99%	15.86%	14.33%	14.47%	12.97%	7.07%	2.72%	0.15%	94.21%
2.わずかに基準範囲を外れているが、日常生活に差し支えないもの	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%
3.日常生活に注意を要し、経過の観察を要するもの	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.04%
4.治療を要するもの	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%
5.精密検査を要するもの	0.55%	0.66%	0.79%	0.75%	0.91%	0.89%	0.68%	0.29%	0.02%	5.54%
6.治療中	0.01%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.04%	0.02%	0.01%	0.00%	0.19%
計	12.22%	15.68%	16.70%	15.11%	15.41%	13.91%	7.78%	3.02%	0.16%	100.00%

【令和元年度】乳がん検診



年齢階級	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	計
1.この検査の範囲では、異常がないもの	22.10%	16.54%	21.16%	13.24%	13.64%	3.73%	2.02%	0.00%	92.43%
2.わずかに基準範囲を外れているが、日常生活に差し支えないもの	0.73%	0.80%	0.67%	0.62%	0.47%	0.07%	0.02%	0.00%	3.38%
3.日常生活に注意を要し、経過の観察を要するもの	0.04%	0.00%	0.02%	0.02%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.13%
4.治療を要するもの	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
5.精密検査を要するもの	1.04%	0.86%	1.06%	0.42%	0.45%	0.09%	0.05%	0.00%	3.97%
6.治療中	0.02%	0.02%	0.02%	0.00%	0.04%	0.00%	0.00%	0.00%	0.09%
計	23.92%	18.21%	22.92%	14.30%	14.66%	3.89%	2.09%	0.00%	100.00%

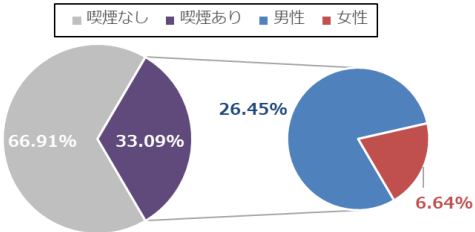
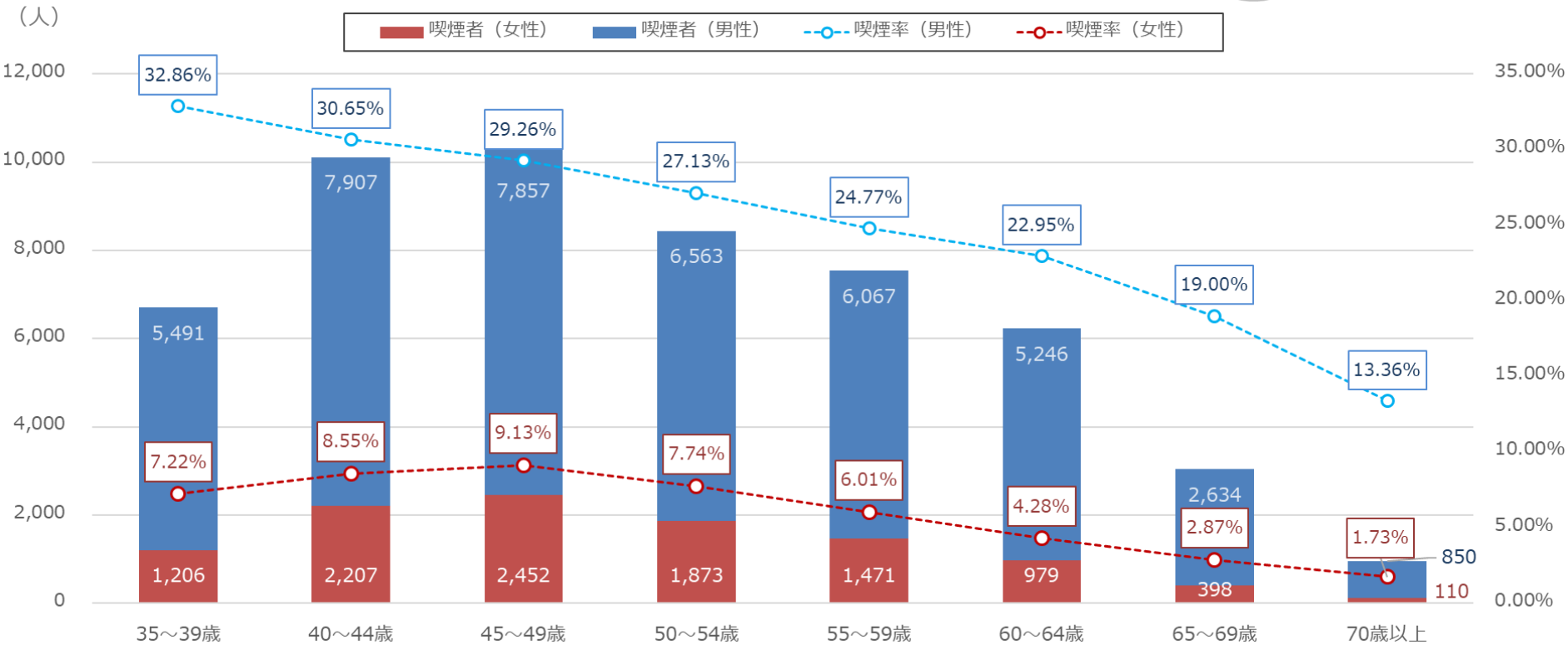
【令和元年度】 子宮頸がん検診



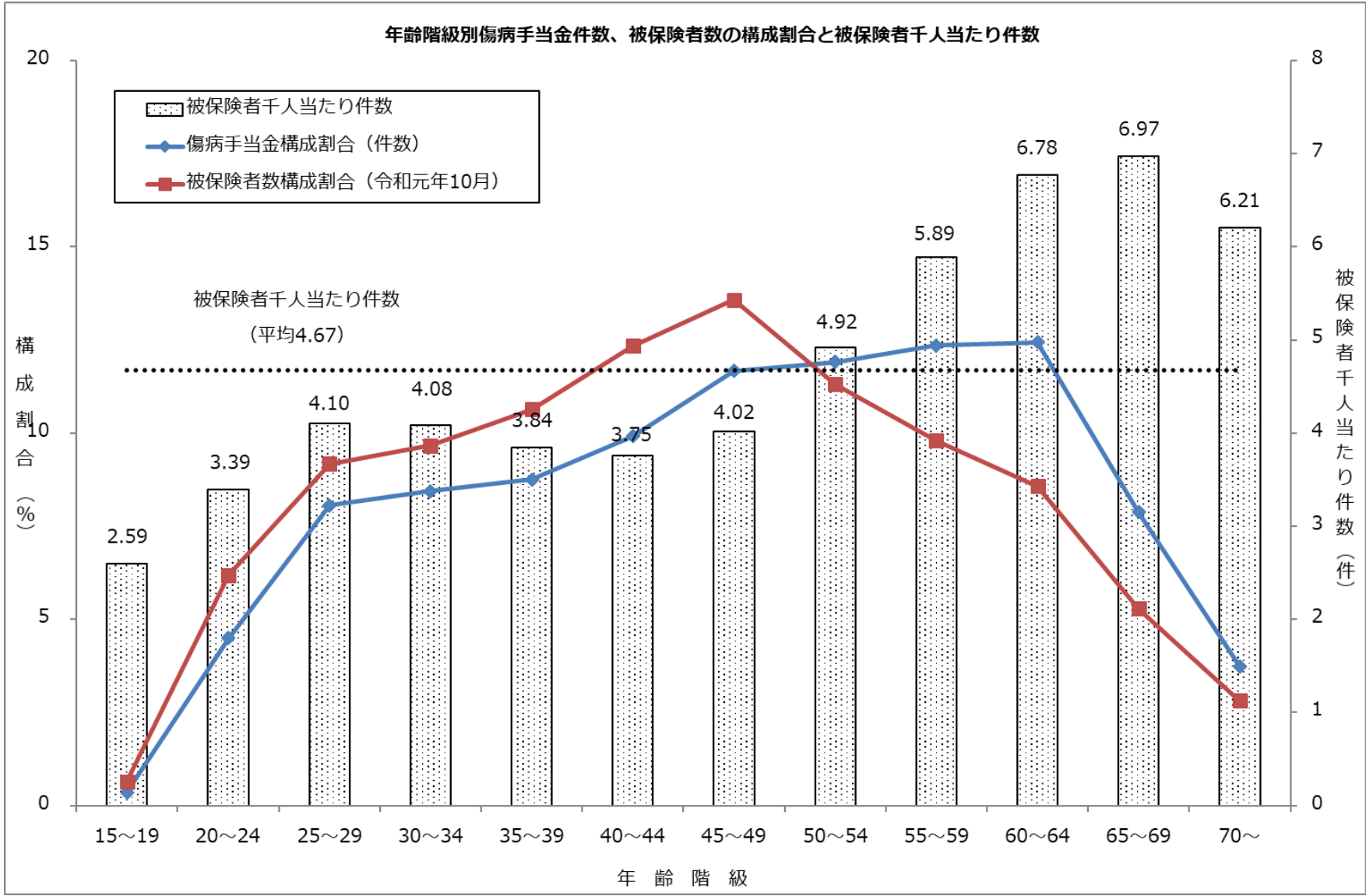
該当割合（子宮頸がん）	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	計
1.この検査の範囲では、異常がないもの	3.48%	4.11%	6.88%	8.36%	15.12%	10.31%	14.17%	9.14%	10.36%	2.65%	1.49%	0.00%	86.07%
2.わずかに基準範囲を外れているが、日常生活に差し支えないもの	0.13%	0.16%	0.22%	0.21%	0.87%	1.08%	1.01%	0.55%	0.38%	0.10%	0.04%	0.00%	4.76%
3.日常生活に注意を要し、経過の観察を要するもの	0.01%	0.00%	0.09%	0.15%	0.58%	0.58%	0.81%	0.24%	0.19%	0.00%	0.01%	0.00%	2.66%
4.治療を要するもの	0.01%	0.00%	0.03%	0.01%	0.13%	0.07%	0.10%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.40%
5.精密検査を要するもの	0.25%	0.27%	0.61%	0.55%	1.35%	1.08%	1.05%	0.43%	0.27%	0.09%	0.03%	0.00%	5.96%
6.治療中	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.06%	0.01%	0.04%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.15%
計	3.89%	4.54%	7.84%	9.28%	18.11%	13.14%	17.19%	10.36%	11.23%	2.84%	1.60%	0.00%	100.00%

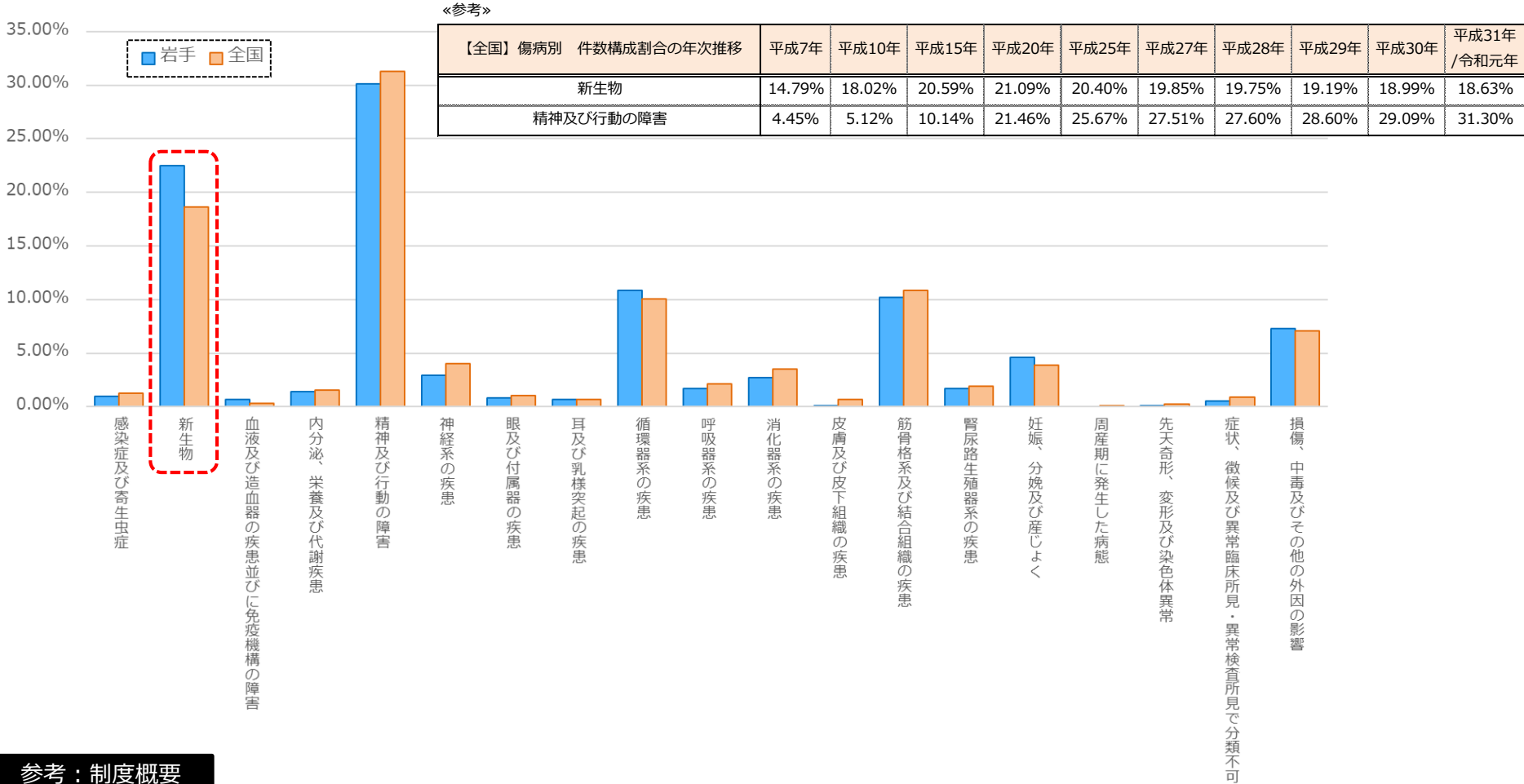
【令和元年度】 喫煙

(喫煙率：喫煙ありと回答した者÷質問票回答者数：53,311人)



回答内容	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	計
喫煙している	40.08%	39.20%	38.39%	34.88%	30.78%	27.23%	21.88%	15.09%	33.09%
喫煙していない	59.92%	60.80%	61.61%	65.12%	69.22%	72.77%	78.12%	84.91%	66.91%





参考：制度概要

○支給条件

- ・仕事とは関係のない（業務外）病気やけがの療養のための休業であること
- ・仕事に就けないこと
- ・4日以上仕事に就けなかったこと（連続する3日間の休業を含む）
- ・休業した期間について給与の支払いがないこと

○支給期間

- ・支給を開始した日から最長1年6か月

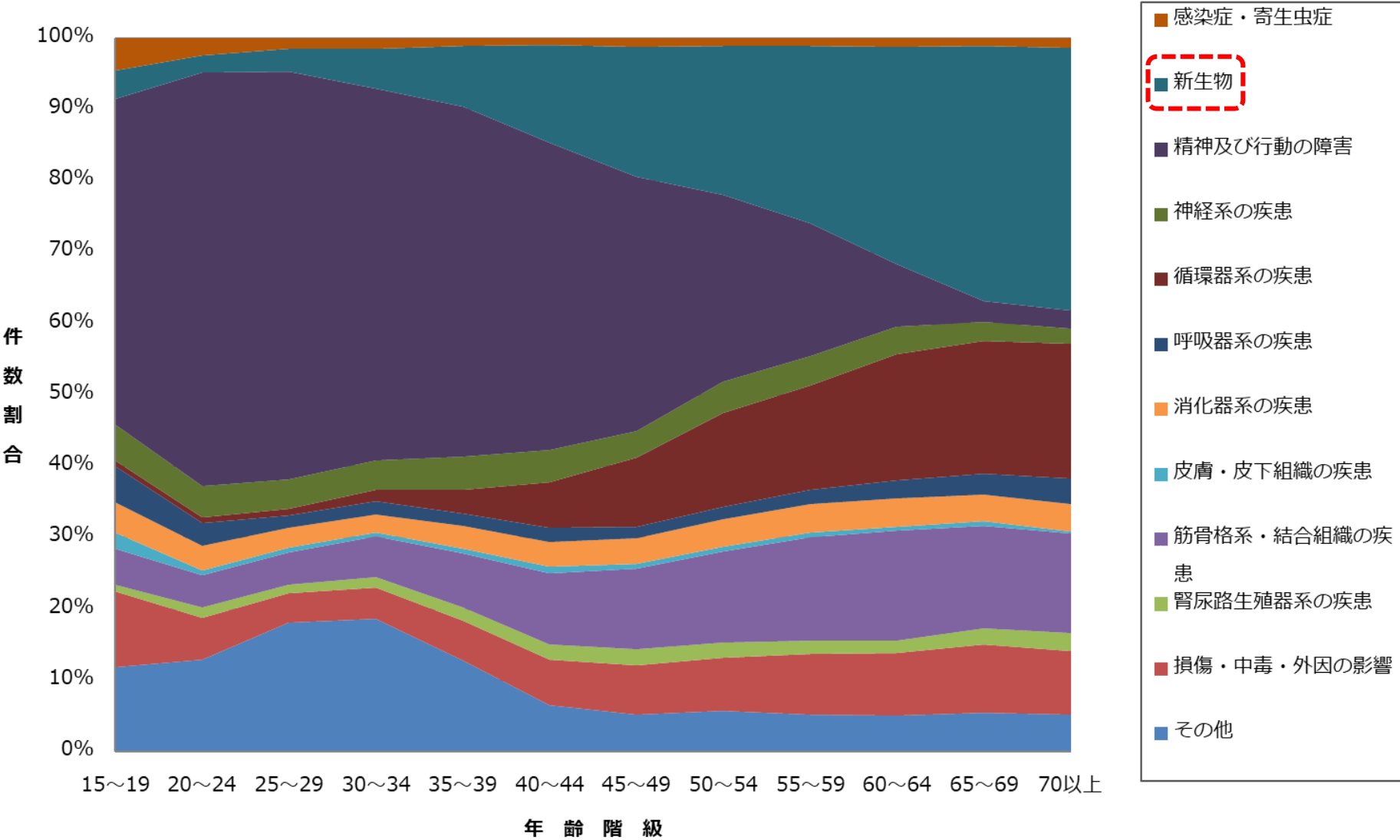
○支給額（1日当たり）

- ・【支給開始日以前12か月間の標準報酬月額を平均した金額】÷30日×（2／3）

○退職後の傷病手当金について（下記要件を満たす場合に退職後も受給できる）

- ・資格喪失日の前日（退職日）までに継続して1年以上の被保険者期間があること（任意継続被保険者の期間は除く）
- ・資格喪失日の前日（退職日等）に傷病手当金の支給を受けているか、または受けられる状態（支給される条件を満たしていること）にあること

年齢階級別、傷病別の件数割合



・令和元年10月分 岩手支部傷病手当金支給データ ※令和元年度 全国健康保険協会管掌健康保険 現金給付受給者状況調査報告のデータを使用
・疾病については、社会保険表章用121項目疾病分類コードをもとに集計

⑧まとめ

- がん検診とセットになった生活習慣病予防健診の受診率は令和元年度で51.50%となっている。（※年度平均被保険者数を集計に用いており、実際の統計情報等と数値が異なる。）・・・2ページ
- がん検診の受診率を見てみると、肺がん検診の受診率が最も高く（51.24%）、次いで大腸がん検診（47.94%）、胃がん検診（37.44%）の順に受診率が高くなっている。乳がん検診（4.91%）、子宮頸がん検診（6.04%）については、受診率が10%以下となっている。・・・3～7ページ
- 各がん検診の年齢階級別の指導区分の該当割合では、ほとんどが「異常なし」との結果になっているが、肺がん検診の経過観察（2.43%）、胃がん検診の経過観察（19.59%）の割合が比較的高くなっている。・・・8～9ページ
- また、「精密検査を要するもの」の割合は各検査において1%を超えており、子宮頸がん検診（5.96%）、大腸がん検診（5.54%）、胃がん検診（5.41%）、乳がん検診（3.97%）の順に高くなっている。・・・8～12ページ
- がんに関係があると思われる生活習慣として、参考までに質問票の「喫煙」項目について集計を行った。喫煙率は全体で33.09%（平成30年度：35.5%）となっており、平成30年度の喫煙率より減少しているが、依然高い状況にあると考えられる。・・・13ページ
- 岩手支部の傷病手当金の支給状況を見ると、最も支給件数の構成割合が高いのは「精神疾患（30.15%）」、次点で「新生物（22.50%）」となっており、「新生物」については全国の割合より3.87%高く、疾患の中で最も全国平均よりも高い状態になっている。・・・15ページ
- 年齢階級別、傷病別に傷病手当金の件数割合をみると25～29歳を境に「新生物」の件数割合が高くなっており、その割合は徐々に増加していく。・・・16ページ
- がん検診がセットになった生活習慣病予防健診の受診率が向上していけば、同時にがん検診の受診率も上がり、がんの早期発見・早期治療につながるものと考えられる。同時に傷病手当金の申請数が減少することもあると考えられる。また、がんに関係すると思われる喫煙率が高い傾向にあることから、喫煙率減少に向けた取り組みも重要と考えられる。